

緊急連絡

日頃より園運営につきまして、ご理解ご協力いただきありがとうございます。

現在のコロナの状況を考え、ご家庭を出る前に今一度、お子様の健康状態をしっかりと確認お願いいたします。

1、発熱確認

2、食欲があり元気か？

3、表情がいつもと変わらないか？

玄関で、この3つに少しでも不安がある場合は「休む勇氣」を持って、ご家庭でご様子を診ていただきますよう、ご協力の程よろしくお願いいたします。

都内の保育園（2学期は幼稚園も予想されます）では、クラスターが多数発生しております。

1ヶ月の間に2度もクラスターにて休園の保育園もあります。

皆様にご迷惑をおかけしないよう、「一人一人が少しの気をつけ」にてこの局面を乗り切りたいと思っております。

私たち職員も日々緊張感を持って十分に注意して保育にあたっております。

保護者の皆様にもどうぞ心よりお願い申し上げます。

（ばんだ組担任 松田、田中、保育補助 藤巻、伊東、中島、新井、谷内、川合）

マスク着用について

今一度マスク着用についての見直しをお願いいたします。

“新潟大学の斎藤昭彦教授（小児感染症学）は、「子どもが重症化する例も出ており、これまでとは全く異なる局面だ」と危機感を示した上で、マスク着用や手指消毒の重要性を改めて強調。マスクについては、ウレタンやガーゼ製ではなく、感染リスクをより低くする不織布製を推奨し、顔の大きさにあったものを鼻・あごと密着させるよう求めた。”

このようなエビデンスもありますので、園としましては、幼児クラスの子どもたちや保護者様にはマスクは必ず着用いただきますよう、何卒ご協力の程よろしくお願い申し上げます。また、ばんだ組の子どもたちに関しましてはまだ年齢が小さいこともありますが3歳のお誕生日を過ぎているお子様で無理なく着用できる場合にはマスクの着用にご協力いただければ幸いです。マスク着用と併せて、すぐに乾いてしまう少量の消毒ではなく、滴るほどの手指消毒を園でも行っておりますので、ご家庭でもご協力の程よろしくお願いいたします。

日頃より保護者の皆様にご理解ご協力いただいておりますこと、心より感謝申し上げます。子どもたちと共にこの大変な状況を乗り越えられるよう、毎日の手洗い・うがい・消毒・換気を徹底して行っております。職員一同、引き続き最大限の出来ることを全力で行ってまいりますので、保護者の皆様にもご理解ご協力の程よろしく申し上げます。

ばんだ組登降園について

登降園はいままで通り園庭より外階段を通っていただき、2階テラスばんだ保育室前にいらしてください。

コロナ感染予防、三密対策に伴い、庭門（園庭滑り台横門）を入口、テラス門（和室前門）を出口といたします。ソーシャルディスタンスを守って密にならないようご協力を宜しくお願いいたします。

まだまだ、残暑の厳しい日が続いておりますが、ばんだ組の子どもたちは元気いっぱいに登園し笑顔を見せてくれる姿を見てうれしく思っております。

夏の間にお家ではどんな楽しいことがあったでしょうか、このような状況下の中でも安全に気をつけながら子どもたちと一緒に楽しめることを見つけ過ごしていたことを保護者様や子どもたちの言葉や笑顔から伺えました。夏休み日記を見ながら一人一人の楽しかった夏の思い出を振り返ることが今から楽しみです。



ばんだ組では、ますますお友だちに対する興味が出てきていて2～3人のお友だちと一緒に遊ぶようになる姿が増えてきました。“何をしているのだろう…” “一緒にやりたい” “〇〇ちゃんと遊びたい” 様々な気持ちが出てきています。もちろん、相手の思いと自分の思いがずれて遊びが止まってしまったり、トラブルになってしまったりすることもあります。“自分の思いを好きな人になんか” からこそ、今できる表現方法なのだと思います。そんな気持ちを受け止めながら相手に伝えるにはどんなふうに言えば良いのか、またお友だちはどう思っているのかということが伝わるように気持ちの代弁を丁寧にしてみたいと思います。



水遊びでは、コップやペットボトルなどの容器を使い、水を汲む、別のところに流すといったことを、繰り返し楽しんで、タライの水温をそれぞれ変えて暖かいお湯、水、氷が入った冷たい水など自分のお気に入りの温度を見つけたり、色々な遊び方で水遊びを満喫しております。

夏の疲れが出てきやすい時期ですので、体調変化に留意しながら、一人一人と丁寧にに関わり、日々子どもたちが楽しく子ども園で過ごせるようにしてまいりたいと思います。

(ばんだ組担任 松田 真規子)

直前インフォメーション

○引き取り訓練

9月10日(金) 緊急時のお迎えの訓練です。後日HPに手紙をアップいたしますのでご確認ください。

○水遊びについて

9月も水遊びやシャワーを行います。引き続き体温やサイン等を忘れずをお願いいたします。

○3～5歳児入園説明会、内部考査について

コロナ渦による変更等における保護者様のご理解ご協力に日々感謝しております。お手紙をお渡ししておりますが、9月4日(土)に予定しておりました説明会は9月18日にオンラインにて行うこととなりました。説明会にオンラインで参加後、同日、内部考査がございます。お間違いのないようご注意ください。

○健康診断

9月16日(木) 9時から健康診断がございます。この日にお休みされた場合は、後日改めて健康診断を受けに行ってくださいこととなりますので、お休みされないようご協力をよろしくお願いいたします。

○運動会

10月9日(土) 詳細は後日HPに手紙をアップいたしますのでご確認ください。

○運動会代休について

10月11日(月) 運動会代休は、ばんだ組は通常通り保育を行います。

○お願い

玩具など、園生活に不必要な物はお持ちにならないようお願いいたします。また、かばんをお持ちになる方は、キーホルダー等はつけないようご協力をよろしくお願いいたします。



9月の目標

- ・簡単な身の回りのことを、自分でやってみようとし、自分でできた達成感を味わう
- ・水分補給をしっかりと行い、戸外でたくさん遊ぶ



9月の歌紹介

子ども園でも歌っているうたです。

ご家庭でもお子様と一緒に歌ってみてくださいね。

♪つき 文部省唱歌

- 1 でたでた つきが
まるいまるい まんまるい
ぼんのような つきが
- 2 かくれた くもに
くろいくろい まっくろい
すみのような くもに
- 3 またでた つきが
まるいまるい まんまるい
ぼんのような つきが



♪まっかな秋 作詞:薩摩忠 作曲:小林秀雄

- 1 まっかだな まっかだな つたのはっぱが まっかだな
もみじのはっぱも まっかだな
しずむゆうひに てらされて まっかなほっぺたの きみとぼく
まっかなあきに かこまれている
- 2 まっかだな まっかだな からすうりって まっかだな
とんぼのせなかも まっかだな
ゆうやけぐもを ゆびさして まっかなほっぺたの きみとぼく
まっかなあきに よびかけている
- 3 まっかだな まっかだな ひがんばなって まっかだな
とおくのたきびも まっかだな
おみやのとりいを くぐりぬけ まっかなほっぺたの きみとぼく
まっかなあきを たずねてまわる



9月の絵本

子どもたちが興味を持っている絵本

先生たちのおすすめの絵本を紹介いたします！

・『あっぷっぷ』

作者: 中村征夫

出版社: 福音館書店

夏の取り組みでばんだ組のお部屋を海にしようとして、色々な製作を行ってきたことで海の生き物に関する興味関心が出てきたばんだ組の子どもたち。この絵本はクマノミ、フグ、イカ、アンコウなど色々な海の生き物がまるでにらめっこをしているかのように魚たちの正面の顔が愉快な写真絵本です。あっぷっぷの言葉に合わせて変な顔をしながら魚の写真やお友だちの顔を見ている姿に思わず笑みがこぼれてしまいます。



食育について

給食の際に子どもたちに伝えていることをご紹介します。

ぜひ、ご家庭でも行ってみてくださいね。

前回は、前を向いて座って食べることがどんな良いことにつながるのか、日々子どもたちに伝えていることを紹介しました。

今回は～**食具の持ち方**～についてお話をしていきたいと思います。

スプーンやフォークを自分でもって食べるようになる時に、持ち方には3つのステップがあります。

《ステップ1》

最初は上からグーで握る上手持ち！

普通食を食べられるようになり、スプーンやフォークの柄を自分で持つようになった一番最初の持ち方です。これは指先の動きの分化が未熟だったり、指先の力が足りなかったりと、手を上向きに返す動作もまだ自然ではないために、自然な形としてこの持ち方をするのです。



《ステップ2》

治った手首は次へのステップ！下手持ち

スプーンやフォークの使い方が定着してきた頃に、時々上から握っている手を返して下から柄を握れるように援助を行います。最初はいつのまにか上手持ちに戻ってしまいがちですが、手首を内側から外側に返す動作が出来るようになっていきます。上手持ちより少しすくうことが難しくなるのでこの時に後ろから手を添えて一緒にすくうなどしていきます。反対の手はお皿に添えることもこの時期に伝えていきます。手首をうまく返して使えるようになり、食べこぼしが減ってきたら次のステップへ。

《ステップ3》

三点持ち！

この持ち方は、いわゆる鉛筆持ちで、持つ時のイメージがつきやすいよう「バキューンの手にして」と手をピストルの形にした状態でスプーンを持つようにお話することが多いです。三点持ちでは、下手持ちで会得した手首の返しを使いながら、スプーンやフォークの柄を人差し指で下から。親指で上から挟み、ほかの指は軽く握っています。

ぱんだ組の子どもたちは、この三点持ちをしっかりと習得していけるよう食具の持ち方を丁寧に見ていくようにしています。ただ、食具を上手に使いこなすには焦らないことが大切です。持ち方の注意ばかりが多くなってしまうと食事を嫌がるようになることもありますし、お父様お母様も疲れてしまいますよね。近年、箸や鉛筆の正しい持ち方ができない子どもが増えてきたことから、箸への移行は焦らずにじっくりとスプーンやフォークで持ち方の練習をすることが大切とも言われています。指先の動きがしなやかになり力の使い方が上手になるには、容器のふたを開ける、破る、混ぜる、ボタンをかける等遊びや生活の中でたくさん手指を使うことが大切です。楽しみながら、そして持ち方を意識して食べることが出来るようにしていきたいと思います。

お家で食べる際にも、食具の持ち方は今どうしているかなと確かめながらお声をかけていただければと思います。